

寄り添えるような存在で

土質屋北陸 専務理事 森川 和重氏

地質調査の独立した試験機関である協同組合土質屋北陸（金沢市）の森川和重専務理事は、今年の抱負として「これまでの組合の長い歴史を踏まえながら、組合員の皆さんに何気なく寄り添えるような存在でありたい」と心かけている。

専務理事に就いて5年目を迎えるが、その立ち位置に思いを巡らせていた際、書道家・金澤

翔子さん母娘の姿から、「寄り添う」という意味が分かったような気がした。出しゃばるのではなく、さり気なく、そばにいてパートナーが最大限の力を発揮できること」と感じたとか。

昨年6月に金沢21世紀美術館で長崎・出島表門橋ドキュメン

Ishikawa

かがやき人

2019



さり気ないパートナー 新たな試験解析も期待

ト「ふたたび海を渡る橋 BRIDGE」の上映・トークショーを開催し、12月、土質屋北陸の役員らと出島を訪れた。「本当に昔からあの姿です」とあったかのように風景に溶け込んでいた。橋の構造から間接照明まで、どれだけ気を配り、出島をいかに大事にしているのかがうかがえた」という。

次世代に向けた業界団体や組合運営のあり方が問われる今、「皆さんが悩んだ時に寄り添い、一緒になって考えていけるような協同組合でありたいし、そんな中から新たな試験解析などが生まれることも期待してみたい」とのスタンスだ。